

命と心をつなぐ科学 HAB 市民新聞

2018年4月号

第49号

ご自由にお持ち下さい



❖ CONTENTS

救命救急医療と心肺蘇生『救急車－2』

身近な薬草と健康『泌尿器系疾患に用いられる身近な薬草－2』

新連載 くすりをめぐる様々な話題『くすりのお値段の話 高い薬や安い薬』

みんなの病気体験記『右の腕、右の足を失って父の23年間』

救命救急医療と心肺蘇生

第5回 救急車－2

東海大学医学部教授

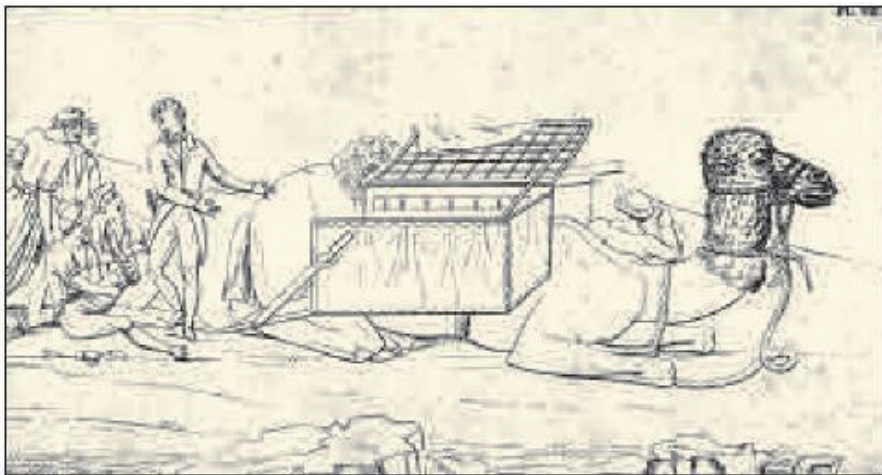
猪口 貞樹

1797年5月、フランス陸軍の軍医ドミニク・ラーレーは、ナポレオンの要請により北イタリアへ出発し、各地の陸軍病院の支援を行いながら、彼の救急車 (*Ambulance Volante*) を運用する部隊を組織化します。ミラノ、パドヴァ、ウーディネの3か所の病院に分隊を置くことを決め、それぞれ責任者を任命、また軍医などの医療スタッフを養成するための学校を併設して、自らも教育を行いました。

翌1798年5月、イギリスと英領インドの連携を絶つため、ナポレオン率いる遠征軍が当時オスマン帝国の統治下にあったエジプトに出発します (エジプト・シリア戦役)。ラーレーと彼の救急車部隊も、これに同行しました。ナポレオン軍は順調に勝利を重ね、同年7月カイロに入城してエジプト全域を配下におきました。ラーレーの救急車部隊は、中東の砂漠地帯でも馬をラクダにかえて活躍します (図)。一方、フランス艦隊は同年8月ナイルの海戦でイギリス艦隊に大敗し、

地中海の制海権を失います。ナポレオン軍は、さらにシリアに向けて進軍しますが、翌1799年3月から5月に、オスマン帝国の港湾要塞都市アクル (アッコ：現在のイスラエル) の攻囲戦で敗退し、ラーレーも負傷します。制海権を握られ補給を絶たれたナポレオン軍には病気が蔓延し、苦境に陥りましたが、同年7月アブキールの戦いでオスマン帝国軍に勝利します。ラーレーはこの時、救急車部隊の活躍により、戦闘終了後15分で、包帯なしに戦場に放置されている負傷兵はいなくなったと報告しています。

この間に、イギリス、オーストリア、ロシアなどは第二次対仏大同盟を結成し、攻勢に転じ、同年8月にはオーストリア軍が北イタリアを奪回しました。この状況を知ったナポレオンはエジプトを脱出、同年10月にパリに戻り、クーデターを起こして独裁権を握ります。翌1800年5月、ナポレオンの率いるフランス軍はアルプスを越えて北イタリアに侵攻し、オーストリア軍を破りま



図：ラーレーのラクダの救急車

Mémoires de Chirurgie Militaire et Campagnes, by Jean-Dominique Larrey, Paris, France: published by J. Smith, F. Buisson, 1812.

す。1801年2月にオーストリア、1802年3月にはイギリスとの講和が成立して第二次対仏大同盟は崩壊、エジプト・シリア戦役は終結します。エジプトに残っていたフランス軍は1801年に降伏し、本国に戻りました。

パリに戻ったラーレーは、近衛軍の軍医総監になります。これ以降、1815年6月のワーテルローの戦いに敗れ、ナポレオンがセントヘレナ島へ流刑になるまで、彼は「ナポレオンの外科医」として、彼の救急車部隊とともに全ての会戦に参加することになります。彼の救急車部隊は、エジプトの砂漠、スペインの山岳地帯、ポーランドの泥沼など、過酷な環境に適応して多くの兵士の命を救い、大切にされました。高速移動する軽量救急車を統合運用し、傷病者を迅速に集めて治療する、という彼のコンセプトは正しかったことが証明されたのです。

さて、救急車によって多くの傷病者を迅速に集め、初期治療ができるようになると、次に「多数の傷病者をどのような順番で手術するか」という問題が生じます。これを決めておかないと、緊急時に現場は混乱し、押し寄せる大勢の軽傷者への対応に手間取って、緊急手術が必要な重傷者が長時間放置される、といったことが起きます。このように多数の傷病者が同時発生した際に、応急処置と同時に治療優先度に応じて行う傷病者の選別のことを、現在では「トリアージ (Triage)」と呼んでおり、救急医療や災害医療などに用いられています。ラーレー自身はこの言葉を用いていませんが、治療優先度による傷病者の選別というコンセプトは彼の考案したものです。

治療優先度に対するラーレーの基準は明瞭で、①最も重傷で手術が必要なものを最優先、②これよりやや重傷度の低いものは重傷の同僚の手術が終わるまで待つ、③自力で後方病院まで行けるものは行かせる、というものです。また、治療優先度を決める際に負傷兵の階級や功績などは考慮しないことを明記しており、しばしば敵の負傷兵も治療していました。この基準から、彼の目的は「多くの負傷兵の命を救う」という人道的なものであったことは明らかですが、その後の戦争において、この考え方は長く受け入れられませんでした。負傷兵と医療要員の保護が国際法で認められたのは、1864年のジュネーブ条約（軍隊における傷病者の状態の改善に関する条約：第一回赤十字条約）、またラーレーの後に初めて救急車部隊を有効に運用したのは、南北戦争中の北軍で、いずれもナポレオン戦争から50年後のことです。

ワーテルローの戦いでは、イギリス軍の司令官アーサー・ウエルズリー（後のウエリントン公爵）が、ラーレーの救急車が負傷兵を集め終わるまで発砲しないよう命令したことが記録されています。戦闘後、ラーレーはプロシア軍に捕らえられ処刑されそうになりましたが、敵の軍医がラーレーに気づき、以前にプロシア軍のブリュッヘル元帥の息子が負傷してフランス軍の捕虜になった際に、彼が治療して助けていたこともあり、元帥に晩餐に招待されたうえ、フランスに送り返されました。1826年まで軍医を務めた後、1842年に76歳で亡くなり、現在は廃兵院 (Les Invalides) でナポレオンの横に埋葬されています。(つづく)

猪口貞樹 先生 <医学博士、東海大学医学部付属病院>

市民新聞45号から「救命救急医療と心肺蘇生」をご連載いただきます猪口貞樹先生は、慶應義塾大学医学部をご卒業後、東海大学医学部外科に進まれ、その後、救命救急医学の道に進まれました。

現在、東海大学医学部付属病院高度救命救急センターの所長として、救急車やドクターヘリで運ばれてくる重症患者の救命にあたられている猪口貞樹先生に、救急医療の最前線から8回のご連載をいただきます。



身近な薬草と健康

第19回

泌尿器系疾患に用いられる身近な薬草ー 2

千葉大学 環境健康フィールド科学センター
池上 文雄



はじめに

泌尿器系疾患の中でもっとも普遍的な「利尿・むくみ」に用いられる身近な薬草について述べます。漢方療法では基本的には水毒による体調不良に対して水を捌くことを目標に、患者さんの証に応じた漢方薬による治療を行います。民間療法でも主に膀胱炎や尿道炎、腎臓病、頻尿、むくみなどに利水を目指しますが、関節痛やリウマチなどにも用いられますので、泌尿器系疾患が必ずしも病因とは限りません。このように、民間療法における「利尿・むくみ」に用いられる薬草は応用が広いといえます。

今回は、アスパラガス、イチヤクソウ、ウツギ、クマヤナギ、サルトリイバラ、スイカズラ、ニワトコについて述べます。

アスパラガス

アスパラガス (*Asparagus officinalis*) は地中海東部原産で、世界中で栽培されているキジカクシ科 (旧ユリ科) の雌雄異株の多年草です。葉のように見えるものは極端にほそく細かく分枝した茎で、本来の葉は鱗片状に退化しています。オランダウド、マツバウドともいい、和名のオランダキジカクシは、雉が隠れるほどに生い茂るさまを



表現しています。ヨーロッパでは古代ギリシャ時代から栽培され、わが国には江戸時代にオランダ船から鑑賞用として伝えられ、食用として栽培されるようになったのは大正時代からです。

茎にはビタミンB類や葉酸、アスパラギン酸、亜鉛などが含まれ、穂先にはルチンが豊富に含まれています。塊根にはアスパラギン酸、ルチン、グルタチオン、ステロイドサポニン (プロトジオスチン) などが含まれます。アミノ酸のアスパラギン酸は、アスパラガスから発見されたことに因んだ命名です。

一般に若い茎を食用としますが、ヨーロッパでは古くから塊根の煎じ液は利尿薬として知られてきました。わが国の民間療法では、若い茎を鎮咳、利尿、高血圧予防、スタミナ増強、血液浄化、疲労回復に茹でたり網焼きにして食べます。また、2~3月に2~3年生の塊根を掘りあげ、水洗い後、熱湯に通してから天日で乾燥した塊根を鎮咳、利尿や疝の虫に用います。腎機能の低下や膀胱炎には、塊根25~50gを水1Lで煮出して1日コップ2杯飲みます。咳、痰にも1日量10gを煎じて服用します。ドイツでは医薬品として膀胱炎や腎臓結石の予防に用いられています。

イチヤクソウ (一薬草)

イチヤクソウ (一薬草: *Pyrola japonica*) は北海道、本州、四国、九州に分布し、特に腐葉土の多い落葉広葉樹林中に自生するツツジ科 (旧イチヤクソウ科) の常緑多年草です。地中に細長い地下茎が横に伸び、その先にやや厚い特徴ある葉を根生し、初夏、花茎を立て数個のウメの花に似た白花をつけます。朝鮮、中国東北部にも分布します。和名の由来は、全草を1本まるごと乾燥させ



て利尿や止血に用いる一番よく効く薬草という意味です。

全草にピロラチンやケルセチン、ウルソール酸、 β -シトステロールなどを含み、6～7月の開花期に全草を採り、風通しのよい日陰で乾燥させたものを鹿蹄草ろくていそうと称して用います。

民間では、急性腎炎や膀胱炎、尿道炎、脚気、妊娠時などのむくみに15gを1日量とし600mLの水で半量になるまで煎じ、3回に分けて食間に服用します。生の葉を揉みつぶした汁液は切り傷や虫さされに塗布し、浴湯料として痔、皮膚疾患などに用います。

温帯のブナノキ、ミズナラなどの夏緑林下には花色が美しい紅色のベニバナイチヤクソウがみられますが、イチヤクソウの仲間はどれも薬用とされ、消炎利尿、強壯、鎮静、鎮痛などに用います。

中国では、粉末を避妊薬として服用し、お茶として月経不順に用いられますが、特に老人の慢性関節リウマチに適しているそうです。

ウツギ (卵の花)

ウツギ (空木・卯木：*Deutzia crenata*) はわが国各地および中国の山野に自生し、庭木として植栽されるアジサイ科 (旧ユキノシタ科) の落葉低木で、初夏5月の終わり頃、新緑の中に爽やかな5弁の白花が半開して群がり咲きます。「夏は来ぬ」に歌われ、また古くから和歌などに詠まれるウノハナ (卵の花) は、卯月 (陰暦4月) に花が咲くことが名の由来ですが、幹が中空なところから空木、木質は極めて堅くて木釘きくぎ (打つ木) としたことに由来します。材は神事の火起こし



に、花は豊作を占うのに用いられました (本誌44号参照)。

成分は精査されていませんが、葉は6月頃の開花中に採り、果実は9～10月頃に採取し、ともに天日乾燥して用います。

民間では、利尿、むくみに開花期に摘み取った葉10～20g、または果実3～10gを1日量とし400mLの水で半量になるまで煎じて、3回に分けて食間に服用します。

クマヤナギ (熊柳)

クマヤナギ (熊柳：*Berchemia racemosa*) は北海道南部以南の各地山野の林縁や谷間の湿り気のあるところに自生するクロウメモドキ科のつる性落葉低木で、7～8月、枝先の総状花序に緑白色の小さな5弁花を多数つけます。冬を越して翌春～夏にかけて黒色に熟した果実は甘みがあり生食できます。和名の由来は、つるが強く熊が出るところに生え、若葉がヤナギの葉に似ることを喩えたものといわれます。クマフジ、クロガネカズラなどの別名があります。昔はこの枝で馬の鞭むちを作り、雪国ではカンジキの材料にしたといわれます。



果実に果糖、アントシアニン、フェノール配糖体、 β -カロテンなどを含むことが知られていますが、茎葉については今後の究明が待たれます。夏から秋にかけて茎葉を採取して天日乾燥して用います。

民間では、胆石の妙薬といわれ、解熱、解毒、利尿、むくみ、腰痛、リウマチなどに乾燥した茎葉6～12gを1日量とし600mLの水で約半量に煎じて、3回に分けて食間に服用します。尿を出す作用は比較的穏やかで、慢性的な膀胱炎に連用しても効果があります。疲労回復、高血圧の予防、健胃には、熟した果実で薬用酒をつくって飲むと良いでしょう。

クマヤナギ属植物は20種ほどがアジア、アフリカ、南北アメリカに分布し、中国では同属植物の多花鉤児茶の乾燥した茎葉を同じように薬用にします。オオクマヤナギやミヤマクマヤナギなどの果実は生食することができ、また若葉は山菜として天ぷらや茹でてお浸しにして食べることができます。

サルトリイバラ（猿捕茨）

サルトリイバラ (*Smilax china*) は各地の山野に自生するサルトリイバラ科（旧ユリ科）のつる性の半低木で、根茎は地中深く、不規則に曲がりながら横に這い、茎には丈夫な刺があります。雌雄異株で、4～5月頃、葉腋に黄緑色の散形花序をつけ、晩秋には果実が赤く熟します。和名は、赤い実が好物な猿が餌を食おうと檻に入り捕まることに由来します。西日本ではカシワの葉の代わりにこの葉で餅を包みます。一方、中国からイ



ンドにかけて分布する刺のないケナシサルトリイバラ (*S. glabra*) の根茎は生薬名を土茯苓^{どぶくりよう}といいますが、日本では一般に山帰来^{さんきらい}と呼んでいます。「山帰来」の名前の由来は悲しい歴史を反映しています。

根茎にはステロイドサポニンのスミラックスサポニン類やタンニンなどが含まれ、乾燥した根茎を和山帰来^{わさんきらい}と称し、解毒、消炎、利尿、浄血薬とします。

民間では、糖尿病や膀胱炎、尿道炎、腎臓病、むくみ、はれもの、腰痛、リウマチ、神経痛などに根茎15～20gを1日量として400mLの水で半量になるまで煎じ、3回に分けて食間に服用します。漢方で梅毒や慢性の皮膚疾患などに用いる山帰来の代用品としても利用されます。

若芽や若葉を摘み、乾燥してお茶の代用とすると風邪の予防になり、茹でて冷水に浸しててんぷらやお浸しにして食べることができます。

スイカズラ（忍冬）

スイカズラ (*Lonicera japonica*) は、山野の日当たりのよいところに野生するスイカズラ科のつる性の常緑低木です。和名は、細長い筒状の花筒の奥に蜜がたまっていて、花を引き抜いて吸うと甘いことに由来、すなわち「吸い蔓^{かずら}」の意味です。また、漢名の「忍冬^{にんどう}」は、冬になっても葉が枯れずに寒さにも耐え忍ぶということから名づけられました。さらにスイカズラの花を基原とする生薬名「金銀花^{きんぎんか}」は、5～6月にかけて2つずつ対になって咲く花が、初め白色から淡い桃色で、2～3日経過すると黄色く変化するため、白と黄の花が混



じって咲く姿に由来しています。

茎葉にフラボノイド配糖体のロニセリン、タンニン、苦味配糖体のロガニンなど、花にルテオリンなどを含み、開花期に花蕾を採取して日陰で乾燥したものを金銀花といい、7～9月に葉がついたままの茎を採取して天日乾燥したものを忍冬といいます。

民間では、解熱、利尿、むくみに金銀花5～10gを1日量として600mLの水で約半量まで煎じて3回に分けて食後に服用し、関節炎やはれものなどの化膿性疾患には食間に服用します。金銀花を煎じて清涼飲料水にしても良いでしょう。利尿やはれものには忍冬が好まれ、5～15gを1日量として同様に煎じて3回に分けて食後に服用します。葉をお茶(すいかずら茶)としたものは毒消しの妙薬として知られ、はれものや痔、淋疾などに飲まれます。さらに、忍冬の煎液は口内炎や扁桃炎、咽頭炎などのうがい薬、湿疹やかぶれ、腰痛、痔などに浴湯料(50～100g)として用いられます。

ニワトコ(接骨木)

ニワトコ(庭常:*Sambucus sieboldiana*)はわが国各地の山野のやや湿ったところに自生するスイカズラ科の落葉低木で、庭木として植栽され、また新芽は山菜として食用になります。枝は柔らかく、太い髓があり、4～5月、枝先に小さな淡黄色の花を円錐状にたくさんつけ、夏には液果が赤色に熟します。タズノキ、ヤマタズ(山多豆)ともいわれ、古事記や万葉集にも載っています。接骨木の謂れは、ニワトコの枝を黒焼きにして、うどん粉と食酢を加えて練ったものを骨折した患部に塗って副木をあてて治療したことにより、ニワトコ属植物は古くから世界各地で薬



用とされ、ヨーロッパではセイヨウニワトコ(*S. nigra*)は薬用ハーブのエルダーとして有名です。

枝葉にはフラボノイドのケンフェロールやケルセチン、硝酸カリウムなどを含み、利尿、鎮痛作用が優れています。花は4月頃に開花する直前に採取して陰干し(接骨木花)、枝葉は7～8月頃にできるだけ細い枝を葉と共に採取し、輪切りにして陰干しして接骨木として用います。なお、セイヨウニワトコの花や葉には青酸配糖体が知られていますが、わが国のニワトコには含まれていません。

民間では、利尿、むくみ、脚気、肝臓病、高血圧などに乾燥した枝葉10gを1日量とし、600mLの水で半量になるまで煎じて3回に分けて服用します。打ち身、捻挫、骨折などには20gを同様に煎じ、この液を冷ましてから布に浸み込ませて患部を冷湿布します。あせも、かぶれ、湿疹、神経痛などには300gを布袋に入れ、浴湯料とします。発汗、解熱には、花5gを1日量として同様に煎じて服用します。セイヨウニワトコの花も古くから発汗、解熱の民間薬として使われてきました。

今回は「泌尿器系疾患に用いられる身近な薬草-3」です。

池上文雄先生 <薬学博士>

市民新聞31号から新シリーズ「身近な薬草と健康」を連載頂きます池上文雄先生は、福島県のご出身で、専門の薬用植物学や漢方医薬学の知識を生かした薬学と農学の融合を目指し、「植物を通して生命を考える」「地球は大きな薬箱」をモットーに健康科学などに関する教育と研究に取り組んでいらっしゃいます。また、NHK文化センター柏・千葉教室などで「漢方と身近な薬草」などの講師をされています。2013年3月に千葉大学環境健康フィールド科学センターを定年退職されましたが、引き続き同センターで特任研究員、2015年4月からは千葉大学名誉教授としてご活躍されています。池上先生には、これまで市民新聞第1号から30号まで「漢方事始め」を連載して頂きました。

くすりをめぐる様々な話題

頭痛持ちの薬剤師 著

筆者は団塊の世代の受験競争を生き抜いて、医薬品の規制や開発促進業務を長年やってきた者です。調剤業務をやったことがないペーパー薬剤師です。現在も細々と薬事関係コンサルタントを続けています。「くすり」に関わる最近の話題と既に時効になったであろう昔の話題を普通とは少し違った視点からご紹介したいと思います。

くすりのお値段の話 高い薬や安い薬

医療用医薬品の値段は誰が決める？

皆さんが病院で処方箋を受け取って薬局で調剤してもらおうと自己負担の無い人はタダですが、健康保険のある人でも3割とか1割とか自己負担があり、薬代を払っていると思います。当然のことですが、薬にもそれぞれ個別の値段があります。

日本は国民皆保険の制度が行き渡っていますので、保険医療で使われる医薬品の値段は健康保険法に基いて国が決められています。薬価基準と呼ばれていて約1万5千品目の医薬品の価格リストがあります。このシステムの全体像は複雑で全部説明すると本一冊でも足りないので大雑把な話だけをします。

「薬価基準」と呼ばれている価格表は昭和25年ころに始まったようです。もう古いことなので、その時にどのようにして収載価格が決められたのか私にもよく分かりません。原則として錠剤一錠ごと注射一本ごと何円何銭と10銭の単位まで細かく決められています。

この価格は、医療機関等から健康保険の支払機関に代金を請求する時の価格の基準になります。

全国一律の価格で保険薬事典などの書籍を見るとそのリストが載っています。

この価格は一定期間ごとに卸売販売業と薬局などの医療機関との取引の実勢価格を調査して、少しずつ引き下げられています。一方新規に承認されて収載される新薬は、既存の薬と類似のものは既存の薬をベースにして算定し、比較する適当な薬がない場合は原価計算によるというルールによって算定されています。

算定された価格原案は中央医療協議会という、一部の委員が国会の承認を必要とする格調の高い、厚生労働大臣の諮問機関の了承を得て決定されているようです。

しかし、ことが^{ゼニカネ}銭金の問題ですから、高すぎるとか算定方法がおかしいとか喧々譁々と品のない議論が行われることもあるようです。



保険薬事典の一例



中央医療協議会 会議の様子

厚生労働省の講堂で開かれることが多い
公開で行われるので見物人も多い

価格の違い

いずれにしても、医薬品ごとに適正な価格を決めることはとても大変な仕事です。面白いことに同じ医薬品でも外国と日本とでは価格が違います。為替レートの変動で価格がずれることもあります。例えばアメリカの方が何倍も高いものがあるかと思えば、イギリスやドイツの方が高いものもあります。その差が2倍程度のことであれば、他の商品でもありうることで、数倍に及ぶこともあるので価格とは一体何かと哲学的になってきます。

例えば最近の例で2017年11月に掲載されたルパフィン錠10mgは類似薬のデザレックス錠5mgと同じ69.40円と算定されましたが、その参考資料で見ると英国では139円ドイツ108.8円フランス28.5円です。イギリスの価格はフランスの価格の3倍以上でした。ではイギリスの医薬品がどれも高価で、フランスの医薬品が全て安いのかという必ずしもそうではないので不思議なものです。

高い薬

ところで一番高いと言われている薬はどんなものでしょう。特別なものですが「スピラザ® 髄注12mg」1バイアルあたり9,320,424円です。負荷投与終了後の通常投与（4カ月毎に髄注。年3回投与）で年間の薬剤費は27,961,272円になります。



スピラザ® 髄注12mgの写真

高いので相当な議論があったようですが、脊髄性筋萎縮症という特殊な病気に使うものなので了承されたとのこと。

安い薬

安い薬も色々ありますが、10円以下の薬は安すぎる薬と言っていいでしょう。

昔は有名だった小児用バファリンは、現在アスピリンは小児には使われないのでバファリン配合錠A81と呼ばれていますが、たった6.40円です。この価格だと30日飲んでも200円で足りません。ロラゼパム錠0.5mgは5円です。1錠や1カプセルの価格が安くても1日あるいは1クールでたくさん飲めば、全体の価格も上がってくるので、治療効果と価格の比較は難しいですが、10円以下の薬もたくさんあるということを承知しておいて下さい。

こんなに低い価格で、品質管理、安全対策がきちんとできるのだろうか、包装代や添付文書の費用が負担できるのか、心配になるものもあります。製薬会社としては、他に儲かる品目があるので、損する品目があっても大丈夫ということだろうか、とても気になります。

終わりに

この他にも新薬とジェネリック医薬品の価格の違いや、セットになった医薬品の価格はどうなるかという話題もあります。PET診断に使うFDGスキャン注や呼吸を促進する一酸化窒素ガスのように価格が決められていない医療用医薬品もあります。バイアグラの成分であるシルデナフィルは生活を豊かにする効能の場合は自由価格ですが、動脈性肺高血圧に使う場合は保険の価格が決まっています。このように医薬品と価格の話は際限がありません。また、後日皆さんに興味があればお話ししたいと思います。

みんなの病気体験記

「みんなの病気体験記」では、実際に病気を体験し病気と闘った方から体験談を投稿して頂いています。この体験記は同様の病気と闘われている方を勇気づけ、また日頃健康な方には病気を知ること、予防につながるものとなるのではないのでしょうか。この記事をご覧の皆様にも、ぜひ体験談をご投稿頂き、みんなで病気と闘っていきましょう。



右の腕、右の足を失って、父の23年間

仙台市 上田 昌孝

私の父は、福島県相馬市で大正12年に生まれた。兵隊検査合格後、静岡県磐田の陸軍通信学校の最後の卒業生となり、香港に通信兵として赴任した。その後、大陸内を転戦するうちにマラリアに罹り、終戦を迎えるが、病気と闘いながらやっとの思いで故郷に帰り着いた。高度経済成長期になると、田舎に工場が誘致され、我が家の田もその敷地としてほとんど買収されてしまった。父はその工場に職を得て65歳まで働き、その後は毎日のように釣りに出かけていた。

平成2年9月21日の昼前頃、私の仙台市の職場に父が鉄道で感電して病院に担ぎ込まれたと母から電話があった。私は上司に断り直ちに電車で相馬に向かった。病院に着くと、父は家の北の方のため池に釣りに行き、常磐線の架線に釣り竿をひっかけて感電したと聞かされた。常磐線の電圧は交流2万ボルトである。父はその直撃を受けたものの、電流が釣り竿を持っていた右手から右足に抜けたために一命を取り止めたが、もし左足に抜けていたら感電死していたらしい。

父は、感電後の後遺症である心房細動による不整脈が出なくなったことから、2日ほどして集中治療室から一般病室に移された。感電は内部の組織をより損傷するとのことで、まずは外側が感染症に侵されないように朝晩イソジンで丁寧に洗浄した。最大の問題は右手右足を残すのか、切断するのかであった。このまま細胞の壊死が進めば、そこから出るプトメインという毒で腎臓がやられ

死ぬ可能性が高くなってくる。事故から5日経って、私は祈るような思いで、主治医室に赴いた。ドクターは命を守るために手足の切断を提案した。私はせめて手だけでも助けられないかと聞いたが、駄目であった。顔から血が引いていった。問題は、父にどう伝えるかであった。廊下を真っすぐ歩いて行けば病室である。病室に入り、口を開こうとしたその時、父が言った。「分かった。駄目なんだべ。」「どうして分かるの。」「おめえの顔色を見たら分かる。顔、真っ青だべ。」言葉も無かった。

手術の日の朝、看護師が体温と血圧等を調べたが、どうも結果が良くなかったようで、手術の延期を検討し始めていた。それを察した父は、付き添っていた姉に煙草を買ってくるように命じた。煙草を買ってくると、病室を抜け出して何か吸い、ベッドに戻って看護師を呼びにやった。看護師により、数値が正常に戻っていることが確認され、手術は予定通り行われた。事故の後ずっと禁煙していたため禁断症状が出たのであった。

長い手術の後、父は病室に帰ってきた。右手は肘から先が、右足は膝から下が無くなっていた。父は麻酔から覚めると大声で子供たちの名前を呼びながら一人ひとり抱きしめて、泣いた。その後、切断された手足が入った細長い段ボール箱を渡された。それを持って火葬場に行き、お骨にした後、菩提寺のご住職にお経を上げて貰い、上田家の墓に納骨した。

手術後の手と足の切断面が膿むこともなく、割と早くかたまったので、義手と義足を作成し、長いリハビリテーションが始まった。まずは理学療法士の指導による義足での歩行訓練だった。姿勢が良いと褒められると、俺は兵隊の時30キロの背嚢を背負って何十キロも行軍したんだと威張っていたそうだ。さらに作業療法士による残された左手の訓練も行われた。お箸で豆をつかんだり、ボタンをはめたりする練習を繰り返した。リハビリの先生は褒めるのがうまいし、父もそういわれると悪い気もしないので、投げ出すことも無く続いた。辛いリハビリは、半年以上も続いたが、その間付き添い看護をしていた母はずっと病院に寝泊りしていて、一度も家で寝ることができなかった。

翌年の6月にリハビリを終えて、晴れて退院となった。10ヶ月弱の長い入院だった。家に帰ってからは義足の生活に合わせて、ベッドとソファの生活となった。切断した部分は、筋肉を

使わないため徐々にやせ細ってくる。義足はソケット式になっているので、どうしても緩くなっていく。そうすると歩く時ずれるので、無理な力が働いて足や腰が痛くなってしまった。そのため何回も義足を作り直した。義手は、重いのと形がロボットのような手なので、使用しなかった。ただ、無くなったはずの右手の痛みやかゆみにしばらく悩まされた。いわゆる幻肢痛であるが、薬もあまり効かなかった。夜も眠れないことが多くずっと精神安定剤を処方されていた。

平成25年11月3日、父は4ヶ月の闘病の末、肺がんのためあの時と同じように子供たちに見守られながら、息を引き取った。あの事故から23年、90歳であった。杖を突きながら毎日30分の歩行を日課にしていた。告別式の後、煙草を止めていたら、百歳まで長生きしたのではないかと、話しあった。お骨は練り上げ法要の後、お墓に納骨され、23年前に納骨されていた右手と右足のお骨と一緒にした。

第32回 HAB 研究機構市民公開シンポジウム開催のお知らせ

第32回 HAB 研究機構市民公開シンポジウム
婦人科がんの話題

入場無料 (定員250人)

2018年
5月26日(土) 13:00~
つくば産業技術総合研究所
共用講堂 (茨城県つくば市東 1-1-1)

主催：特定非営利活動法人エイチ・エー・ビー研究機構
後援：日本医師会、日本産科婦人科学会、日本婦人科腫瘍学会、筑波大学附属病院
茨城県産科婦人科学会、日本産科婦人科学会、NPO法人セクシーサポートネットワーク
群馬がん体験者の会スマイリー、つくば市教育委員会、産業技術総合研究所 (順不同)

講演1
**女性のライフサイクルの変化と
婦人科悪性腫瘍**
..... 佐藤 豊実 (筑波大学産科婦人科)

講演2
遺伝する婦人科がんとは？
..... 志鎌 あゆみ (筑波大学産科婦人科)

講演3
抗体医薬品について
..... 池上 正晃 (中外製薬株式会社)

市民公開シンポジウム「婦人科がんの話題」 参加予約のお申し込み ▶ 申込み期限 5/11 (金)

☎ 047-329-3563
受付時間：朝9時~夕方17時30分まで (※土日祝休)

✉ information@hab.or.jp
メールでのお申し込みの際は、件名に「市民公開シンポジウム 事前参加申し込み」、本文に「参加者氏名」、「参加登録券送付先ご住所」、「参加人数」をお伝えください。^{※1}

お電話でのお申し込みの際は、「参加者氏名」、「参加登録券送付先ご住所」、「参加人数」をお伝えください。^{※2}

※1 参加登録券送付先ご住所の不着を初めため集合住宅の場合は建物名・部屋番号までご明記下さい。
※2 ご案内の目的以外にこれらの個人情報を使用することはありません。

研修費別添付について
本シンポジウムは財団法人日本産科婦人科センター2単位 (3時間) 申請中の会合です。

※本日は、Human & Animal Building 内で「F・D」を主催
講演者、司会者様へ、講演終了後には講演者へお礼状を
お送りいたします。講演終了後には講演者へお礼状を
お送りいたします。HAB 研究機構との連携により
講演者、司会者様へお礼状を
お送りいたします。HAB 研究機構との連携により
講演者、司会者様へお礼状を
お送りいたします。

HAB 研究機構では年に2回、身近な病気をテーマに市民公開シンポジウムを開催しております。

第32回市民公開シンポジウムは5月26日に「婦人科がんの話題」と題してつくば産業技術総合研究所 共用講堂にて開催いたします。

少しでも早く発見し、適切な治療を行うためにも今回のシンポジウムは、婦人科がんについて正しく理解する良い機会になると思いますので、皆様お誘い合わせのうえご参加下さい。

HAB 市民公開シンポジウム事務局

TEL : 047-329-3563/FAX : 047-329-3565

E-mail : information@hab.or.jp



東北便り

岩手県大船渡市在住の高木久子様から、銘菓「かもめの卵」で有名な、さいとう製菓株式会社取締役の齊藤和典様をご紹介いただきました。3月11日の津波は大船渡市の中心部まで甚大な被害を及ぼし、さいとう製菓も本社と直営店5店舗、和菓子工場が被災し甚大な被害を受けられました。齊藤様からは、今回総本店となる「かもめテラス」オープンに至る経緯をご紹介いただきました。

(情報協力：さいとう製菓株式会社 齊藤和典様)

復旧、復興の先導役として

さいとう製菓株式会社取締役 齊藤 和典

千年に一度と言われる東日本大震災より早いもので丸7年が過ぎようとしています。

既報の通りその被害は甚大であり多くの尊い人命と貴重な財産を一瞬の内に飲み込みました。弊社においても例外でなく本社事務所、三陸菓匠さいとう本店、沿岸部にあった4支店、和菓子工場と大きな被害を受けました。それから沿岸のお取引先も被災され当分の間は営業は出来ない状況となりました。この大津波で幸いにも従業員の中からは犠牲者が無かったのは不幸中の幸いでした。大津波より48日後、国道45号線沿に仮店舗を開く事が出来ました。GWと東北新幹線が盛岡まで復旧したことが重なり狭い店内は多くのお客様で溢れました。全国からの心温かい励ましのお手紙やメール、お言葉を沢山いただき、ただただ感謝感謝の日々でした。街の浸水域は瓦礫も徐々に片づき市より駅周辺地区土地区画整理事業がスタートしたのがH25年8月でした。土地の嵩上げや道路、河川、公園などの再整備と商業の復興でそれはH33年までかかる街の復興大事業でした。弊社に於いてはいち早い本店の本設をと土地を探して居りましたが市より区画地の一角をお貸りする事となりました。その土地はBRT大船渡駅に隣接する1,400坪ほどの一等地でした。

弊社では本店舗の本設に向け社内より12名で「夢店舗プロジェクト」チームを立ち上げました。



被災後の本社と三陸菓匠さいとう本店

それはH26年4月18日でした。それ以前に設計をどこに依頼するか検討していましたが、陸前高田市の軌跡の一本松を復元し制作した東京の乃村工藝社様を選びました。次に施工業者の選定です。その当時は復旧工事がどこでも始まり施工業者が大手を始め中小建設業者まで仕事量が多く見積り入札辞退が相次いでおり業者が決まるか心配されましたが幸いにも5社から見積りを取ることができ、その中から東急建設、仙台支店様に決定しました。次に資金の問題です。当時は建築資材が高騰し2～3割高、追い打ちをかける様に人手不足と高騰要因が重なり予算を立てる事も厳しい状況でした。ただグループ補助金をある程度見込まれたのが救いとなりました。この様々な障害を何とか乗り越えて来たのは会長、社長はじめ社員が一丸となってこの地域に、この街に復旧復興を先導するような夢と希望を与え大人も子供も



〒 022-0002

岩手県大船渡市大船渡町字茶屋前 38-1

Tel 0120-311-514 / 0192-27-3135

営業時間 9:00 ~ 19:00



かもめテラス外観

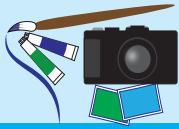


かもめテラス店内 11月15日 OPEN の様子

楽しめる旗艦店舗を造ることでした。地域の人から観光客まで誰からも愛され街のシンボリックな場として幅広い人々が集う憩いの場を提供したい。

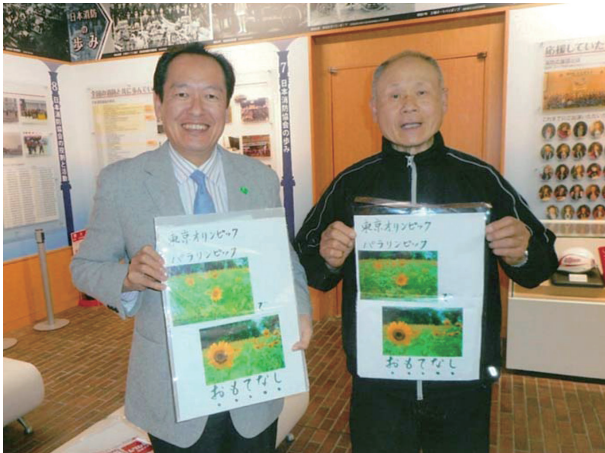
そんな思いでした。プロジェクトチームの会議は約40回程行われましたが旗艦店舗の概要が見え始めたのはH28年4月頃でした。その内容は大きく5つのゾーンに分かれております。1つ目はショップの部分で弊社代表菓子の「かもめの玉子」をはじめ和洋菓子、ギフト箱菓子、冷凍菓子、そして焼き立てパンのコーナーとなります。2つ目は開店を記念して開発した新商品「光の朝」を製造する工房の部分です。お客様からも観ることができ楽しむことができます。3つ目はカフェの部分です。お客様にゆっくりとお休み頂けるようにテーブルとイスを多く用意致しました。オリジナルのソフトクリームやコーヒーは人気となっております。齊藤餅屋ではみたらし団子や豆大福などの餅商品の販売をしております。4つ目はキッズコーナーです。モニュメント的な玉子型の中には絵本やお菓子のクッションを用意してありま

す。子供たちの笑顔がいっぱいです。5つ目はマルチキッチンの部分です。お客様が自分自身でかもめの玉子をデコレーション出来る「DEKOかもめの玉子」が人気です。要予約となっております。他にも和洋菓子の菓子教室が1~2回行われております。この施設の総称を三陸菓匠総本店ではなく新しく「かもめテラス」と致しました。このネーミングはさいとう製菓のアイコンとも言える「かもめ」と内と外をつなぐ建築要素の「縁側(=テラス)」から発想しました。訪れたお客様を「お菓子でもてなす場」として「えんがわ」に在るようなくつろぎ感を大切に「街の縁側として親しまれるように」という願いを込めています。そしてH29年11月15日にグランドオープンを迎えました。想定より多くのお客様にご来店頂き、有り難い気持ちで一杯の日となりました。その後も客足は衰えず地域、街の先導役としての役割を果たしており、地域の活性化や真の復興の一助となればと考えております。皆様のお立ち寄りを心よりお待ちしております。



読者のこえ

『読者のこえ』では、皆様から頂きました写真イラスト、川柳などを掲載しております。



3.11 発生の直前にガン手術をした。星本先生でした。手術が終わり病室に向かってエレベーターで移動している途中でした！！

その後、土、日はガンと闘う友人、いわゆる「ガン友」の病室や病院内ロビーでリハビリを兼ねて「ガン友」ちび励ましの交流を重ねるようになりました。

3.11 で陸前高田市の戸羽市長にも励ましの手紙と希望と平和のシンボル「ひまわりの種」を贈ったところ後日、礼状が届きました！！

礼状には「機会があれば是非、お会いしましょう」とのメッセージとともに戸羽市長を中心に地域の皆さんやボランティアの人々がひまわり畑を背に満面の笑顔で写っているカラー写真が添えてありました！！

私は一日千秋の思いで市長と対面できる日を心待ちにしていたのですが、平成 29 年なんと 2 月 18 日東京で開催された「東日本大震災から 6 年 風化させない 忘れられない」というシンポジウムで対面が実現しました！！

戸羽市長は私の持参した「東京オリンピック・パラリンピック ひまわりでおもてなしをしよう」のアピールポスターを「私も持ちましょう！！」と両手でしっかり掲げてくれました。

私は人類共生の視点で随所にひまわりを咲かせてオリンピックを大成功させることが唯一の被爆国、日本の義務と責任と使命があり平和の素晴らしさを守り育ていくソフトパワーこそが大震災復興を加速させる大きな原動力と思います。

オリンピック開催中は国際的な悲惨なニュースが発生しないことが、世界のリーダーが人類共生の心を心肝に染めて大局的な立場で対話を希求し価値観を共有し合うことが必要不可欠であることを示している証ではないかと確信します。

それはピョンチャン大会が如実に示し 21 世紀のオリンピック史のレガシーに相応しい人類が心の金メダルで飾ることができたと思っても過言ではない！！（ガン友様）

投稿のお願い

皆様のご質問やご意見、写真、イラスト、川柳、体験記などを事務局までご投稿下さい。

送付の際には、名前、ペンネーム（掲載の際に使用する名前）、住所（返送及び掲載のご連絡に使用致します）を記載の上、作品を郵送もしくは E-mail にてお送り下さい。

その他にも新聞やシンポジウムに対するご意見・ご感想も随時募集しております。ご投稿頂いた方には、事務局より心ばかりの記念品をお送りさせていただきます。

送付先：〒 272-8513 千葉県市川市菅野 5-11-13 市川総合病院 角膜センター内
E-mail: information@hab.or.jp FAX: 047-329-3565 HAB 研究機構 市民会員事務局まで

表紙説明 間々田のジャガマイタ（栃木県小山市） 開催日：毎年5月5日

間々田のジャガマイタは、栃木県小山市間々田八幡宮で毎年5月5日に斎行される祭事です。その起源をはっきりと示す資料は残っていないようですが、江戸時代後期には間々田の名主上原雅輔氏宅を境として、南を「下坪」北を「上坪」と称し、それぞれ一体の蛇を作って祭りを行っていたと伝えられているそうです。農作物のための雨乞い、そして五穀豊穡を祈願する農耕祭事として、間々田の人々の間で400年以上守り伝えられてきたと考えられています。



“ジャガマイタ”という呼称の由来も定かではないようですが、「蛇が参った」あるいは「蛇が巻いた」という意味があると伝えられているそうです。祭り当日は、間々田地区7つの町内で、ワラや竹、シダなど身近な材料を用いて、それぞれが創意工夫した全長15mを越える蛇体が作成され、間々田地区の鎮守である間々田八幡宮本殿前に7体一斉に集合する「蛇よせ」が行なわれます。正午頃から、神職による「修祓式」が行われ、口に御神酒を注がれ、次いで、蛇体は順番に境内にある弁天池に移動し、蛇に水を飲ませる「水呑みの儀」が行われます。



午後になると、蛇体は200人もの担ぎ手によって各町内に戻り、「蛇練り」となります。「ジャーガマイタ、ジャガマイタ」のかけ声とともに蛇体を担いで、厄除け、家内安全を願って町内を勇壮に練り歩きます。途中、蛇同士が出会うと、「蛇もみ」といって2体の蛇をとぐろを巻いて絡むように操り、さらに激しくもみ合いを行ない祭りはクライマックスとなります。



祭り当日は、この祭事を見に県内外から数万人の参拝客が訪れ賑わうそうです。間々田のジャガマイタを見に、この春は栃木県小山市に足を運ばれてみてはいかがでしょうか。



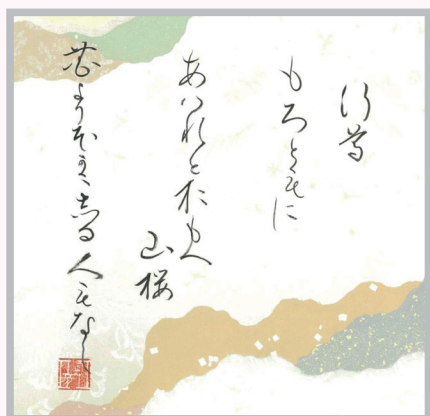
写真情報協力：間々田八幡宮

無料配布のご案内

HAB 市民新聞は、地域の病院・薬局などにご協力いただき、病院や薬局の待合室などで市民の皆様へ無料でお配りしております。個人様も配布窓口として登録いただき、お知り合いの方々にお配りいただいております。是非とも興味をひかれた記事がございましたら、バックナンバーなどホームページ (<http://www.hab.or.jp/>) でご紹介しておりますので、お気軽に事務局までお問い合わせ下さい。

ナンバークロス

東 恵彦先生作成のナンバークロスです。解答を事務局までお送り下さい。
 同じ番号に同じカタカナを入れて、縦横意味の通じる語句にして下さい。
 ヒント：水色のマスには百人一首の和歌が入ります。



1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27			

	1	2	3	1	5		6	1	7
8		9		10		11	12	13	14
15	16	17	3	6	1	18		19	
10	12	19	12		20	21	13	14	22
	7		20	14	10		27		12
23	24	9		19		15		11	
14	14		25	26	24	7	23	4	5
2		4	18		25		9	22	12
	21	19		4		26	16		11
10	27	8	3	1	26	10		17	19

※解答は次号（第 50 号）に掲載します。

故 東 恵彦先生は東京大学医学部をご卒業後、昭和大学、筑波大学医学部教授を務められ、定年後は長原三和クリニックで院長を務められていました。東先生は百人一首の一句一句でナンバークロスを作成されており、その中から、春の作品を選びました。是非、皆様解答を事務局までお寄せ下さい。

※解答の黄色のマスに入るカタカナをつなぐと、一つの単語ができあがります。解答を住所、氏名をご記載の上、事務局までお送り下さい。抽選で 5 名の方に粗品をプレゼントします。

解答ヒント：

		22	19	
--	--	----	----	--

締切り：6月4日（消印有効）

ナンバークロス 解答

■ 前号（第 48 号）のナンバークロスの解答です。

解答：『ミンナノウタ（みんなのうた）』

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
ア	ワ	ジ	シ	マ	ニ	イ	メ	ザ	コ	カ	ヨ	ウ	チ	ド
16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
リ	ノ	ミ	ン	エ	タ	キ	モ	セ	ナ	ク	ス	ネ	ヌ	ツ

編集後記

2017 年 10 月に開催致しました第 31 回市民公開シンポジウムの講演を纏めた叢書「お父さんの健康を考えよう 前立腺がんのお話」が発行されました。シンポジウム当日は、多くの女性にもご来場頂きまして、奥様、お嬢様がお父さんの健康を心配されていることが窺えました。本叢書をご一読頂きましてお父さんの健康にお役立て下さい。また、本号から新連載がスタートしました。くすりについて新たな視点からさまざまな話題をとりあげてご解説頂けることと思いますので、ご期待下さい。



HAB 市民新聞 命と心をつなぐ科学 第 49 号
 発行：特定非営利活動法人 HAB 研究機構 HAB 市民会員事務局
 千葉県市川市菅野 5-11-13 市川総合病院 角膜センター内
 TEL：047-329-3563 / FAX：047-329-3565
 URL：http://www.hab.or.jp / E-mail：information@hab.or.jp

2018 年 4 月 発行
 代表者：深尾 立（理事長）
 編集責任者：山元 俊憲（広報担当理事）
 中島 美紀（広報担当理事）
 鈴木 聡（事務局）

■ H A B とは Human & Animal Bridging の略で、「ヒトと動物の架け橋」という意味です。病気やくすりの研究では実験動物から臨床試験へは大きな隔りがあり、社会問題ともなっています。私どもは、この隔りを埋めるために、ヒト組織や細胞が有用であるという情報を皆様に発信し、共に考えていく団体です。著作権法の定める範囲を越え、無断で複写、複製、転載することを禁じます。